



外観イメージ

## 新庁舎建設設計概要・設計コンセプト

災害時の復旧活動の拠点となり、  
町民の皆さん的安全を守る庁舎を――



開成町長 府川 裕一

現在の役場庁舎は、竣工から46年が経過し、外壁が剥げ落ちるなど老朽化が進んでいます。

また、平成7年、17年に実施した耐震診断では、防災拠点としての耐震基準を満たしていないとの結果が出ています。

町としても、役場庁舎について、早期に整備しなければならないとの認識を持っていましたが、「企業誘致」、「南部地区の基盤整備」、「開成南小学校の建設」、「開成小学校の大規模改修」などの大きな事業が続いていることによって、役場庁舎の建設を進めることができました。

4月の熊本地震では、庁舎の倒壊による災害復旧の遅れを目の当たりにしました。

大震災の可能性が叫ばれる当地域では、災害時の復旧活動の拠点となり、業務を継続することができる新庁舎の整備は最も重要な課題となっています。町民の皆さんの安全を守ることがで、課題である「待合スペースや相談スペースの向上にもつながる庁舎を整備したい」と考えています。

庁舎整備は、数十年に一度の大規模事業ですので、町民の皆さんとしっかりと議論しながら、着実に進めていきたいと考えています。

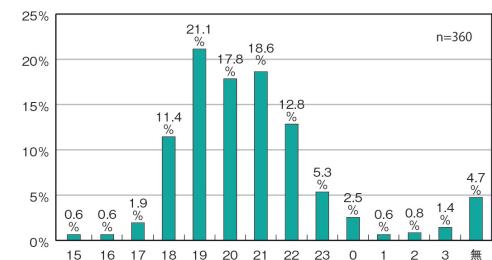


## まちづくり情報特派員特集

### テーマ：パパの子育て事情

写真左から、  
横山覚さん、遼くん(4歳)、礼奈ちゃん(7歳)、  
小林裕さん、成海ちゃん(5歳)、渚彩ちゃん(8歳)、  
角張太一さん、六花香ちゃん(2歳)、  
井上卓哉さん、稟介くん(2歳)、歩咲ちゃん(5歳)

父親の帰宅時間割合



出典：開成町子ども・子育て支援事業計画

n=360

皆さん、開成町出身の39歳、文命中学校出身の同級生です。お子さんが生まれる前は、開成町を一日離れて生活していましたが、今は地元開成町に再び根をおろし、町で子育てをしています。

「土に触れる環境で子育てがしたい」と小林さん。そんなパパ達の思いが、「笑顔ファーム」の活動にもつながっています。

皆さん家事も積極的にを行い、休日はお子さんを連れておでかけしているそう。「自分も子育てを楽しみながら、奥さんが自分の時間を持つようになりたいと思っています」と横山さん。「子どもが生まれる前から家事は分担していたので、今も自然にやっています」と井上さん。

皆さん、子育てを楽しんでいます。「自分が楽しくなければ、子どもが樂しいわけがない」とお話をいただいた角張さんの目は輝いていました。  
育児はママとパパの共同作業ですが、たくさんのママ友、パパ友とも子育てを分かち合い、心から楽しむ姿に本当の「イクメン」の姿を見ました。

### 【取材後記】

育児にお父さんも積極的に参加する。この10年くらいでしょうか。「イクメン」(育児するメンズ)なんて言葉が世間を賑わせています。

私もイクメン歴がもう10年になります。最初は、主婦(夫)の多忙さにびっくりしました。部屋の片づけ、料理…次から次へと仕事が舞い込みます。きちんとやろうとするとキリがありません。奥さんとの家のシェアも難しい。

私の体験では、子育ては難しいけれど、やりがいもいっぱいあります！自分の中の思いがけない母性を発見することもあります。

ぜひイクメンの輪が広がればいいなと思います！

まちづくり情報特派員 小田 猛



イクメンについて語り合うパパたち